

西特別支援学校 CS 通信

～地域で育つ、地域で育てる、地域が育つ～

No.2 令和7年11月18日

第2回学校運営協議会開催

10月15日（水）令和7年度第2回学校運営協議会を開催しました。内容は下記の通りです。

- | | | |
|-----|----------------------|-------------|
| 日 程 | 1. 学校運営協議会 | 15:30～15:45 |
| | 2. 熟議（テーマ別ファシリテーション） | 15:50～16:45 |

1. 学校運営協議会

(1) 議事

令和7年度 学校評価中間報告

3つの重点項目について中間報告

- ・ **重点項目1** 「特別支援教育基礎研修講座」を10回開設。
学び続ける職員集団の礎を構築できてきていることを説明。
- ・ **重点項目2** 「関連機関、保護者と連携」し、必要に応じて
家庭支援を行えてきていることを説明。
- ・ **重点項目3** 「子供達を地域総がかりで育てるためのコミュニティースクールとパートナー
シップ事業の一体的推進に取り組む」ことや地域との活動が見えるように学校の廊下に「地
域資源マップ」にシールを貼り、取り組みが見える化していることを説明。



令和7年度 学校予算執行状況について中間報告

- ・ 学務課予算、施設課予算、保健給食課予算それぞれの
執行状況について説明。

令和7年度 地域と学校パートナーシップ事業途中経過

- ・ 今年度9月までの活動について「西っ子ふれあい通信」を
もとに地域の方との関わりを活動内容含め説明。

令和8年度 年間行事計画（案）

- ・ 来年度の計画や検討中の内容について説明。

(2) その他

昨年度に続き、今年度も10月19日に行われる「新潟にし
かん産業祭（旧まき多加良まつり）」に参加して、児童生徒の
作品展示や作業製品を販売することになりました。

（大成功にて終了しました）

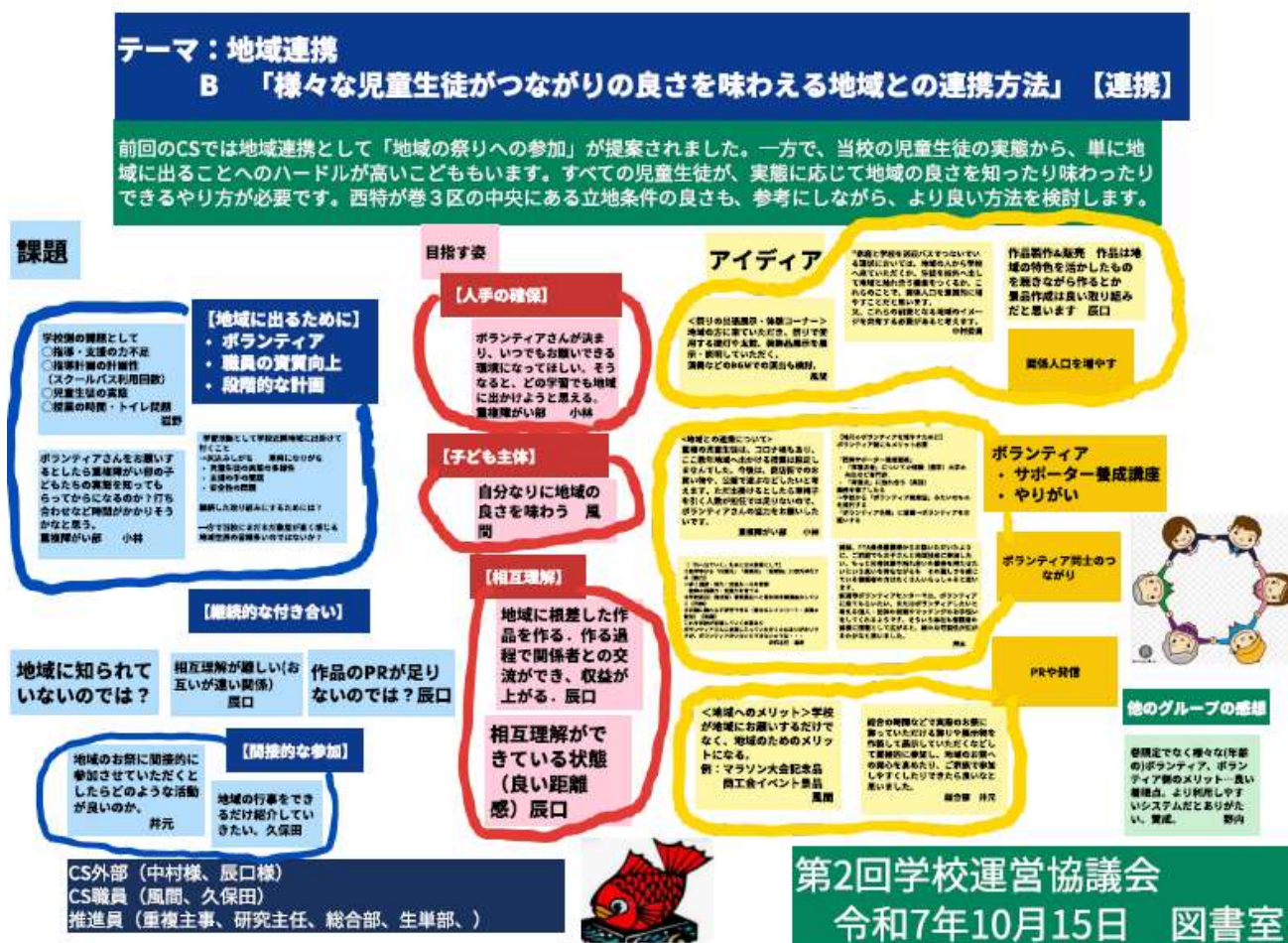


（１）テーマ別ファシリテーション ３グループに分かれ、テーマ別で「課題」「目指す姿」「アイディア」について意見交換しました。ファシリテーションでは、普段子どもたちが授業で使っている iPad を委員の皆さんに実際に使っていただきながら行いました。

製作した作品をプレゼントしたり景品にしたりするなど地域に浸透していく。



アイデア：地域に積極的に PR 発信していく。



テーマ C：「高等部や卒業後地域社会とつながる例や成人期につながりが豊かになるために」

【卒業後の連携】

課題：通学範囲が広いため地域の行事に参加しにくい。保護者が情報を受け取る余裕がない。

目指す姿：進路選択の際、行政サービスなど、どのような選択肢があるかを小学生の頃から保護者が知って活用する。

アイデア：電車に乗るなど普段できないことを地域の中で体験させたい。

テーマ：地域連携

C 「高等部や卒後、地域社会とつながる例や成人期につながりが豊かになるために」【卒後の連携】

小学部中学部で培ってきた地域との関りを高等部やその後の生活にどのようにつなげてくるとよいでしょうか。このグループでは、高等部や卒後に地域や社会とつながっている例を挙げていただきながら、将来の連携やつながりのあり方、そこに向けて重点としたいことなどを検討します

小中高連携	家庭支援	地域連携	余暇・移動支援	居住・地校交流
高等学校なども卒業する前に、必ずなか、元々の居たコミュニティの繋がりと共にあります。その時に限らないよう小学生高学年、中学生の間から開始、こうした、こうなりたい学校や保護者と話し合い、進路選択に際しないよう総合的な学習など、多くの児童（若者の能力に応じた）などに参加して計画を確し、関係者へ報告してほしい！ C3委員 高等部や卒後にいきる、小中での学習 小学部段階で、将来をどれだけ見通せるか。そのための情報を、誰がどのように提供していくか。 (センター側) 多くの児童生徒が卒業後の進路について、地域連携アドバイザーとキャリア教育指導員と相談しています。 このつながりは、進学塾や専門学校、就職先と続いていきます。 成人期につながるきっかけにもなるため、小中学校からこのつながりを大切にしていくように、働きかけていきたいと思います。 小学部の時から、将来について考える機会をもつ	関心が薄い保護者にどうアプローチするか、情報は流すが、その次がつながりづらい 児童生徒の保護者に会話がない、日々を無事に過ごすので構へ杆になっている 子どもが小さいうちは、何ができるのかの判断がしづらいため、将来の見通しがもちづらい 同じことの繰り返し返してて好む子どもも多く、新しいことを家庭に進めづらい	地域行事への参加（何ができるか受け入れる側の配慮、体制づくりなど） 通学地域が広いため、高等部卒後につながりが薄れてしまう 学校のある地域と居住地が違うので、どう結びつけていくか 	- 余暇の過ごし方 - 保護者等交流はできている - 通所や通学手段の心配がある 卒業後に困らない楽しみなどを持つ 放デイにもよるが、電車に乗るなど、普段できない体験ができる施設もある 余暇活動や通所の情報が得やすい 今のつながりを絶やさない仕組みがある	居住・地校交流の繋がりや卒業後も維持できると良い 災害時 避難所等 安全対策としての特徴から 西尾市立、南尾市立、東尾市立の3つの地区の住民交流センターとなっている。平日午前に行っている地域交流や防災訓練と合わせて行うことも多い。コロナの影響によりオンラインでも開催している。というところがある。小学校卒業までには交流センターの職員から送られてくる地域交流カードが配布される。小学生から高校生まで利用可能。また、地域交流センターには、学習支援や就業支援として身体障害者用トイレ、多機能トイレなどの設備を整えている。また、地域の活動も盛んである。

行政サービス

新設市内の建設については、市の開発課が作成した「令和7年度新設市内のまちづくりガイドブック」に掲載されています。（QRコード掲載のパネル付印刷品）
連絡事項



情報 ICT

保護者へ情報発信をした後、質問などリアクションを求めるようにすると、情報の双方向に出し合うことができるのではないかと





第2回学校運営協議会
令和7年10月15日 図書館

(2) 校長挨拶

今回の熟議のように話し合う時間を持ち、ほかの方のアイデアを聞くことで自分の考え方が整理できたり、考えが深まっていったりするのだらうと思います。

またこのような話し合いがもてない場合、紙面で情報を発信する訳ですが、受け取った側が、受け取るままだけではなく、気軽に返信する場があることも大切と考えます。

一方通行だけでなく双方向で物事を考えていくことが大切と感じています。